

気仙沼市立南気仙沼小学校

2015年 1月 6日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「記録-東日本大震災 被災から前進するために」宮城県気仙沼市立学校長会 気仙沼市教育委員会、宮城教育大学
<http://fukkou.miyakyo-u.ac.jp/report/pdf/kesani.pdf>

【場所】

気仙沼湾から約1.7km、学校の隣に大川が流れている。

住所:宮城県気仙沼市南郷25-1

※現在は閉校し、別の学校と統合している。



赤い範囲:気仙沼市

気仙沼市

緑の範囲:南気仙沼小学校

【東日本大震災による被害】

津波により校舎1階天井付近まで浸水。

※現在、校舎は取り壊されている。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、3～6年生は6校時の授業中で1・2年生は5校時が終わって下校中であった。教頭が校内放送を行おうとしたが電気は使用できなくなっていたため、職員室にいた教職員が教室を周り、揺れが収まり次第、教室にいる児童を校庭の中央に避難させるという指示を伝えた。3～6年生は校庭に避難し、まだ学校の近くにいた1・2年生は担任が連れ戻した。その結果、下校した児童の9割は校庭に避難した。10数名は、すでに帰宅して家族と一緒にいたと思われる。また、保護者が迎えに来た児童を確認の上、数名引き渡した。この内1名が亡くなった。

15時頃になり、防災無線から6m超の津波襲来との情報が入り、校舎2階への避難を開始した。この頃、近隣住民や幼稚園の子ども達が続々と避難してきていた。学校と合同ではないものの、校舎に避難する訓練は何度かしていたので混乱なく避難することができた。校長と教頭で手分けをして校庭で避難誘導を行い、最後に校舎に避難する予定であった。

15時半近くになると、学校そばの堤防を津波が乗り越え、校長は逃げ遅れそうになりながら教務主任と協力して足の悪い避難者を連れてなんとか中央校舎に避難した。教頭も同様に逃げ遅れ、中央校舎には入れず別棟の東校舎に約30名の避難者と避難した。この時、中央校舎には児童350名、近隣住民120名、幼児80名、教職員等50名、合計約600名が避難していた。学校は周囲から孤立し、翌日自衛隊により避難者全員が救出された。また、孤立した状況の中で、内湾で発生した火災により火の着いた瓦礫が何度も波に乗って学校の周囲を行き来しており、もし学校に燃え移った場合は、避難していた消防団員のアドバイスから、まだ腰まで水があるが大人が子どもを背負って脱出することを話し合っていた。幸い、火が燃え移ることは無かった。(1)

【調査して言えること】

海から約1.7km離れているが、学校の標高は約2mで、隣に川が流れており、地震の際に津波を警戒する必要のある学校である。また、学校からは川の様子がよく見えていたと考えられる。

学校の周囲には高台や山は無いが、西に800mほど離れた場所が高台になっており、標高30mほどの高さがある。また、学校から西に1kmほどの場所に県立高校があり、標高約40mの安全な場所である。

少し遠いが学校から1km以内に高台があり、学校外への避難も可能な学校である。



気仙沼大橋(北から見た学校と堤防(2014/3/18撮影))

※白い囲いで覆われている場所に学校があった。



気仙沼大橋(北から見た学校と川(2014/3/18撮影))